

小 牧 市 の 概 要

1. 位 置

北緯 35度17分

東経 136度54分

濃尾平野のほぼ中心

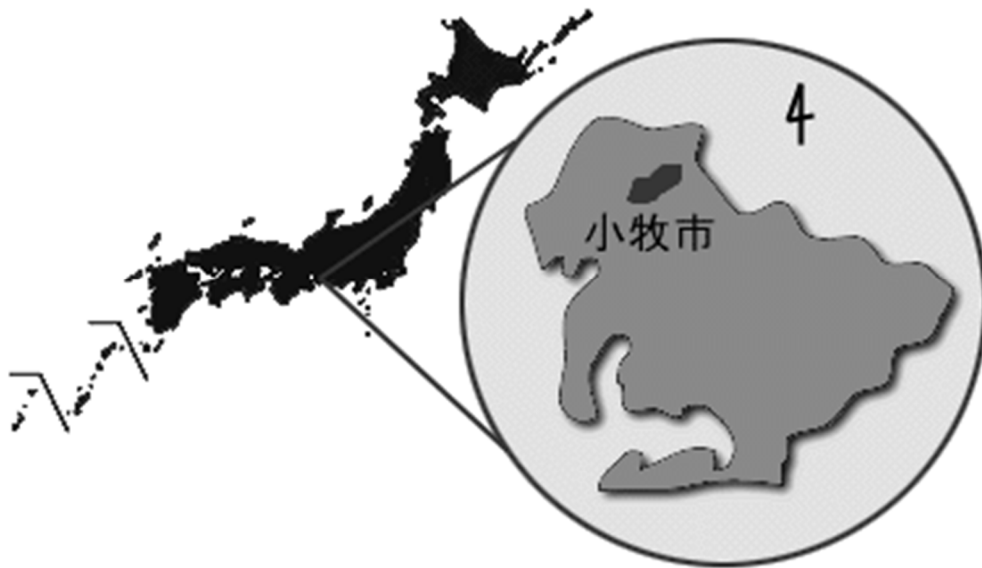
2. 広 ぼう

東西最長 14.82 km

南北最長 9.22 km

周 囲 57.50 km

3. 面 積 62.81 km²



小牧市は、昭和30年1月、小牧町・味岡村・篠岡村の1町2村の合併により県下21番目の市として市制を施行しました。昭和38年9月には西春日井郡北里村と合併し、現在の市域となりました。

高度経済成長期には、中部の空の玄関名古屋空港、さらには名神、東名、中央の3大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ、多種業が進出し、かつての田園都市から内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展しました。

さらに、名古屋都市部と小牧インターチェンジを直結する名古屋高速道路11号小牧線が開通したほか、名古屋鉄道 小牧線と名古屋市営地下鉄 平安通駅までの連絡線が開通したことにより陸上交通要衝としての地位をさらに確固たるものとししました。また、現在小牧市は、「小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画」において、第1次基本計画で掲げた3つの都市ヴィジョンを承継し、SDGsやダイバーシティの考えを包含するとともに、DXの推進やカーボンニュートラルの実現など、時代の潮流に対応すべく新たな視点を加えた計画のもと、「こどもが夢を育み、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが安心して暮らせる、持続可能で、魅力と活力あふれる夢ある小牧市」の実現に取り組んでいます。

小 牧 消 防 の 沿 革

- 昭和39年 4月 第1分団車庫を改築し、消防本部及び署を発足。職員18人と消防ポンプ自動車1台、指揮車1台で消防業務を開始する。
- 5月 消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 8月 水槽付消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 10月 救急自動車1台を消防署に配備し、救急業務を開始。超短波無線電話の基地局を消防署に、水槽付消防ポンプ自動車・救急自動車に移動局を装備し、連絡の敏速化を図る。
- 昭和40年 9月 水槽付消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 10月 小牧市役所新庁舎の落成式が、市制10周年と共に挙行され同時に消防本部及び消防署を新庁舎内に移転する。
携帯無線機を1基装備し、災害時の連絡を強化する。
- 昭和41年 6月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台寄贈を受け火災保険号と命名する。
- 昭和43年 1月 林野火災に備え、小型動力ポンプを配備する。
- 4月 名神高速道路供用開始にともない、起点となる小牧市に日本道路公団から救急自動車の貸与を受ける。
- 昭和44年 8月 広報車1台を配備する。
- 11月 日本道路公団から超短波無線機1基貸与され救急自動車に装備する。
- 昭和45年 11月 車両火災、危険物火災等に対処するため化学消防車1台を配備する。
- 昭和46年 3月 屈折はしご自動車（15m）1台を購入し、中高層建築物の人命救助及び火災活動の強化を図る。
- 6月 査察車1台を購入し、防火・防災の予防を強化する。
- 9月 高発砲消火装置1台を購入し、火災活動の強化を図る。
- 昭和47年 12月 中央自動車道路供用開始にともない、日本道路公団から救急自動車の寄贈を受ける。
- 昭和48年 2月 消防隊が火災現場へ到着するまでの間、消防協力者による消火器使用に対し、その消火薬剤の補助制度を設ける。
- 昭和49年 7月 自衛隊F86Fジェット戦闘機、西之島に墜落 死者4人
- 12月 水槽付消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 昭和50年 8月 結婚式場吉祥殿火災 焼損面積1,240㎡ 被害額9千6百万円
- 10月 愛知県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈を受け、消防本部発足時に配備したメトロポリタン型救急自動車を廃車とする。
火災による損害を受けた市民を救済するため、共済制度を設け小牧市市民火災保障条例を制定する。
- 昭和51年 3月 市役所庁舎から独立した新消防庁舎落成する。
- 昭和52年 3月 消防職員・団員の招集及び市民への周知徹底を図るため、市内5ヶ所に無線サ

- イレン制御の受信装置を設置する。
- 昭和53年 6月 空き地に繁茂した雑草や枯れ草により火災が発生するのを防止するため、雑草除去に関する条例を施行する。
- 12月 消火活動の能率向上を図るため水槽車（10t）1台を配備する。
- 昭和53年 2月 小牧ロータリークラブから指揮車の寄贈を受ける。
- 4月 自治体消防30周年記念式典（小牧市市民会館）を開催する。
- 10月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受ける。
- 昭和54年 6月 広報車1台を配備する。
- 8月 10世帯に1本を目標とし市内全域に街頭消火器を初回分として205本設置する。
- 昭和55年 2月 地震対策として、小牧市市民会館駐車場入口に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 3月 自警団組織の充実を図るため、大山自警団に可搬式動力ポンプを配備する。救急自動車1台を配備する。
- 7月 総合気象観測装置を購入し災害に備え、無線サイレン制御の受信装置を1基購入し野口地区に設置する。
- 昭和56年 2月 街頭消火器511本を市内に設置する。
- 3月 可搬式動力ポンプ1台を購入し、小木自警団に配備する。救助工作車1台を配備し、特殊災害に対する消防力の強化を図る。
- 6月 連絡車1台を配備する。
- 7月 指揮車1台を配備する。
- 11月 街頭消火器451本を市内に設置する。
- 昭和57年 3月 水槽付消防ポンプ自動車・消防ポンプ自動車を配備する。
- 7月 小牧市自主防災会連絡協議会及び小牧市婦人消防クラブ連絡協議会発足する。
- 10月 市東部地区防火防災の要として消防署東支署（仮庁舎）を開署する。可搬式動力ポンプ1台を購入し、藤島自主防災会に配備する。
- 11月 街頭消火器275本を市内に設置する。愛知県共済生活協同組合から広報車の寄贈を受ける。
- 昭和58年 3月 日本損害保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。
- 8月 小牧ライオンズクラブから広報車の寄贈を受ける。
- 11月 街頭消火器510本を市内に設置する。
- 昭和59年 3月 小牧市消防本部設立20周年記念式典
- 7月 災害現場へ資器材を搬送するため、器具搬送車1台を配備する。第29回愛知県消防操法大会が当市において消防庁長官、日本消防協会長及び愛知県知事を迎え開催（小牧市第1スポーツ広場）する。
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け二重堀、市之久田自主防災会・婦人消防クラブに配備する。
- 11月 日本防火協会から広報車の寄贈を受ける。

- 昭和60年 2月 超短波救急無線装置を開局し救急自動車3台・指揮車・救助工作車各1台に装備し、特殊災害の連絡の強化を図る。
- 8月 水利部署迅速化のため、消火栓標示ラインを施工する。
- 昭和61年 6月 街頭消火器210本を設置し、合計3,138本となり目標の10世帯に1本の割合を達成する。
- 昭和62年 1月 東支署仮庁舎を廃止し、池之内地内に鉄筋2階建新庁舎を開署する。
- 3月 消防本部及び消防団が防火思想の普及、消防施設の整備、その他の災害の防御に関する対策について、成績が特に優秀にて消防庁長官表彰旗を受賞する。
地震対策として、北里小学校内に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け春日寺、池之内の婦人消防クラブに配備する。
- 10月 中高層建築物の災害に対処するため、はしご自動車（35m）1台を本署に配備し、屈折式はしご自動車（15m）1台を東支署に移動配備する。
- 12月 市東部地区の建物火災・林野火災等、水利確保の迅速化を図るため大型水槽車（10t）を東支署に配備する。
- 昭和63年 1月 愛知県共済生活協同組合から救急自動車の寄贈を受ける。
- 8月 火災、救急現場の早期検索誘導等を目的に消防地図検索システムを通信指令室に導入する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、南外山、久保一色の婦人消防クラブに配備する。
- 平成 元年 5月 通信指令室の緊急情報システム設置工事を着工（緊急情報システムⅡ型）する。
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ3台寄贈を受け、本庄第1、とみづか団地の婦人消防クラブに配備（1台本部保管）する。
- 平成 2年 3月 通信指令室の緊急情報システム運用開始
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ6台寄贈を受け、常普請、村中、東町、小牧原街道、大草の婦人消防クラブに配備（1台本部保管）する。
- 平成 3年 6月 西之島倉庫火災 焼損面積3,981m²
- 10月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け（1台保管用と合わせて3台）岩崎西部、下小針、林の婦人消防クラブに配備する。
はしご自動車（40m）を東支署へ配備する。
- 平成 4年 7月 市役所福祉課の協力業務として緊急通報センターを通信指令室に開設し運用開始する。
- 9月 市南部地区に消防署南出張所を開所し、水槽付消防ポンプ自動車、救急自動車、広報車各1台で運用を開始する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、桜井、河内屋の婦人消防クラブに配備する。
- 12月 消防本部・消防署庁舎の老朽化にともない改修工事を施工する。

- 平成 5年 1月 南出張所の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 2月 南出張所の救急自動車を更新する。
- 9月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
- 10月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、下之町、古雅第4の婦人消防クラブに配備する。
- 11月 自治体消防45周年記念式典に参加（東京ドーム）する。
日本消防協会から救急自動車1台寄贈を受ける。
- 12月 総合気象観測装置を消防署、東支署、南出張所に整備し、常時通信指令室にて観測結果が大型パネルで表示・記録可能となる。
- 平成 6年 4月 名古屋空港中華航空機墜落炎上事故
乗客256人、乗員15人 計271人 内264人死亡
エアバス A300-600R型
- 8月 指揮車を新規配備する。
- 11月 指揮車の運用を開始する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、懐、久保の婦人消防クラブに配備する。
- 平成 7年 1月 阪神淡路大震災に応援出動する。3月22日までの間に出動した7次隊に対して、延べ38人の消防職員を派遣する。
高規格救急自動車を購入する。
- 2月 高規格救急自動車運用を開始する。
- 5月 救急救命士第1号誕生
- 6月 普通救命講習会を一般市民、事業所、団体等を対象に開始する。
- 9月 救急救命士が乗車する高規格救急自動車の運用を開始（昼間のみ）する。
- 平成 8年 2月 救急救命士の救急出動24時間体制を開始する。
化学消防車（Ⅲ型）を南出張所に配備する。
- 4月 市北部地区に消防署北出張所を開所し、水槽付消防ポンプ自動車、救急自動車、広報車各1台で運用を開始する。
- 5月 聴覚・言語障害者の緊急時に対処するため緊急通報ファクシミリ「FAX小牧119番」の運用を開始する。
- 9月 大規模災害に対応するため広域応援体制が強化され、消防機関における通信体制を確保するため全国共通波の運用を開始する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、南岩崎台、久保一色南の婦人消防クラブに配備する。
- 平成 9年 4月 愛知県が事業主体となり、県内の全市町村・県庁・消防庁とネットワークし、広域応援活動に活用する目的として計測震度計を設置し運用を開始する。
- 9月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ1台寄贈を受け、西町の婦人消防クラブに配備する。
- 10月 消防本部のホームページを開設する。

- 平成１０年 ２月 携帯電話からの１１９番受信新システム「分散受信方式」運用を開始する。
 ３月 自治体消防５０周年記念式典に参加（日本武道館）する。
 ４月 愛知県防災航空隊へ職員を１人派遣する。
 ９月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ１台寄贈を受け、竹林婦人消防クラブに配備する。
- 平成１１年 ３月 高規格救急自動車を東支署へ配備（運用開始）する。
 ８月 愛知県・小牧市総合防災訓練を開催（陶スポーツ広場）する。
 １０月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ１台寄贈を受け、岩崎団地第２婦人消防クラブに配備する。
- 平成１２年 ２月 愛知県共済生活協同組合から指揮車の寄贈を受ける。
 ４月 消防庁舎耐震改修工事（４月～１２月）
 ９月 東海豪雨により、死者２人を含む被害が発生
- 平成１３年 ８月 折畳式アルミ救命ボートを購入する。
 ９月 高規格救急自動車を北出張所へ配備する。
 小型動力ポンプ付水槽車（積載水５ｔ）を北出張所へ配備する。
- 平成１４年 １１月 第５回全国消防コンクールホームページ部門において消防庁長官表彰を受賞（優秀賞）する。
- 平成１５年 ３月 高規格救急自動車を南出張所へ配備する。
 ４月 消防署南出張所、北出張所を南支署、北支署に名称変更する。
 ６月 災害対策本部を耐震性の高い市役所南庁舎に移設する。
 １１月 自治体消防５５周年記念式典に参加（東京ドーム）する。
- 平成１６年 ２月 高規格救急自動車を消防署へ配備。５台すべてが高規格救急自動車となる。
 ３月 地震対策として、味岡小学校内に飲料水兼用の耐震性貯水槽（１００ｍ³）を設置する。
 消防本部に地震計を設置し運用を開始する。
 風水害対策として、洪水ハザードマップを作成し、市内全世帯に配布する。
 ２００５年日本国際博覧会（愛知万博）開催に伴い職員２人を派遣する。
 ７月 福井豪雨に緊急消防援助隊として出動する。７月１８日から２日間、救助活動として７人の消防職員を派遣する。
 １１月 新潟県中越地震に伴い緊急援助物資を新潟県小千谷市に搬送する。
 通信指令室の高機能消防指令センター総合整備工事完了
 １２月 災害現場での消防職員の安全管理のため、コート型防火衣をセパレート型防火衣へ更新する。
- 平成１７年 ２月 消防署訓練塔完成し運用を開始する。
 ４月 家具の転倒、落下防止を推進するために防災対策補助金制度を設ける。
 １０月 藤島団地地区及び篠岡大山地区に緊急避難対策用の放送設備を設置する。
 １１月 携帯電話からの１１９番受信システムを「分散受信方式」から「直接受信方式」に変更する。

- 平成18年 1月 地震対策として、篠岡中学校内に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 2月 消防署の水槽付消防ポンプ自動車を災害対応型に更新する。
第58回日本消防協会定例表彰で小牧市婦人消防クラブ会長が優良婦人消防隊員表彰を受賞する。
- 12月 徒歩帰宅支援マップを作成し、災害発生時に活用できるようコンビニエンスストア、ガソリンスタンドへ配布する。
- 平成19年 1月 上末地内工場火災 焼損面積7,000m²
- 3月 日本特殊陶業(株)から起震車（地震体験車）「震ちゃん」の寄贈を受ける。
家具の転倒、落下防止を推進するために防災対策補助金制度を終了する。
- 9月 消防署のはしご自動車を先端屈折式はしご自動車（35m）に更新する。
- 10月 地震対策として、小牧市スポーツ公園（パークアリーナ小牧）第2駐車場に耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 平成20年 3月 日本消防協会から指揮広報車の寄贈を受ける。
自治体消防60周年記念式典に参加（日本武道館）する。
- 4月 消費生活協同組合法の改正により、小牧市市民火災共済制度を廃止する。
- 11月 消防署の水槽車（10t）を更新する。
- 平成21年 1月 南支署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 2月 東支署の高規格救急自動車を更新する。
- 9月 北支署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 平成22年 3月 消防署の指揮車を更新する。
- 平成23年 2月 消防署の化学消防車（Ⅱ型）を更新する。
北支署の高規格救急自動車を更新する。
- 3月 東日本大震災に緊急消防援助隊として出動する。4月24日までの間に出動した愛知県隊16次隊までに対して、延べ87人の消防職員を派遣する。
- 5月 東支署のはしご自動車（40m）を更新する。
- 11月 小牧市ほか3市2一部事務組合の消防指令センターの設置に関する協定書を締結する。
- 平成24年 4月 市の行政組織が改正され消防本部防災課が廃止、市長公室危機管理課が新設され、消防職員3人が出向する。
- 8月 本部の広報車を更新する。
- 10月 東支署庁舎改修工事（10月～3月）
- 12月 南支署の高規格救急自動車を更新する。
- 平成25年 2月 消防署の広報車を更新する。
- 平成26年 2月 東支署の水槽付消防ポンプ自動車を更新し、併せてCAFS（圧縮空気泡消火装置）を搭載する。
消防署の消防ポンプ自動車を更新し、併せてCAFSを搭載する。
消防署の高規格救急自動車を更新する。

- 4月 市の行政組織が改正され市長公室危機管理課が廃止、総務部危機管理課が新設され、消防職員2人が出向する。
市内の自主的な防災活動を推進するため、自主防災会活動支援補助金制度を設ける。
- 8月 第59回愛知県消防操法大会が小牧市総合運動場で開催され、共催する。
- 10月 御嶽山の火山活動に緊急消防援助隊として出動する。
10月11日から2日間、後方支援活動として2人の消防職員を派遣する。
- 11月 小牧市ほか3市2一部事務組合消防通信指令事務協議会を設置する。
- 平成27年 1月 消防署の高規格救急自動車を更新する。
2月 消防功労者として消防庁長官より竿頭綬を受賞する。
消防署の救助工作車を更新する。
6月 東支署の連絡車を更新する。
- 平成28年 1月 愛知県共済生活協同組合から東支署広報車の寄贈を受ける。
消防署の器具搬送車を更新する。
2月 尾張中北消防指令センターの動作確認運用を開始する。
本部の指令車を更新する。
南支署の化学消防車（Ⅱ型）を更新し、併せてCAFSを搭載する。
4月 住友理工㈱から救急訓練用資機材「しんのすけくん」の寄贈を受ける。
尾張中北消防指令センターの運用を開始する。
5月 伊勢志摩サミット開催に伴い消防特別警戒の任務に就く。
5月24日から29日までの6日間、警戒活動として2人の消防職員を派遣する。
- 11月 行幸啓特別消防警備の任務に就く（小牧市役所本庁舎・メナード美術館）。
- 平成29年 2月 東支署の消防ポンプ自動車を更新し、併せてCAFSを搭載する。
3月 日本特殊陶業㈱から高規格救急自動車の寄贈を受ける。
高規格救急自動車の寄贈により、平成26年2月に更新した消防署の高規格救急自動車を非常用（予備車）として東支署に配備する。
9月 北支署の小型動力ポンプ付水槽車（積載水5t）を水槽付消防ポンプ自動車（積載水5t）に更新する。
- 平成30年 3月 自治体消防70周年記念式典に参加（両国国技館）する。
7月 平成30年7月豪雨（岡山県倉敷市真備町）に緊急消防援助隊として出動する。
7月7日から7月10日までの4日間、消火小隊5人及び後方支援小隊2人の消防職員を派遣する。
10月 河内屋新田地内工場火災 焼損面積12,251㎡
- 平成31年 3月 東支署の高規格救急自動車を更新する。
- 令和 元年 6月 本部の連絡車を更新する。
10月 住宅用火災警報器の取付け等支援事業を開始する。
11月 本部の広報車を更新する。
- 令和 2年 2月 消防署を改築し、女性職員用仮眠室等を新設する。

- 4月 市の行政組織が改正され総務部危機管理課が廃止、市民生活部防災危機管理課が新設され、消防職員2人が出向する。
- 令和 3年 2月 北支署の高規格救急自動車を更新する。
- 7月 熱海市伊豆山土石流災害（静岡県）に緊急消防援助隊として出動する。
7月13日から7月16日までの4日間、消火小隊5人の消防職員を派遣する。
- 令和 4年 12月 南支署の高規格救急自動車を更新する。
- 令和 5年 3月 小牧市危険物安全協会創立60周年記念事業として連絡車の寄贈を受ける。
- 4月 市民生活部防災危機管理課へ自主防災会に関する事務を移管する。
- 令和 6年 1月 令和6年能登半島地震（石川県）に緊急消防援助隊として出動する。
1月1日から1月28日までの延べ26日間、救急小隊24人及び後方支援小隊9人の消防職員を派遣する。
- 4月 東支署に2台目の高規格救急自動車を配備し、常時運用する救急自動車を6台体制とする。
- 8月 蒲郡市土砂災害に対し、愛知県消防広域基本計画の出動要請に基づき出動する。
8月28日から8月29日までの2日間、消火小隊5人の消防職員を派遣する。
- 令和 7年 2月 消防署の高規格救急車を更新する。
- 3月 消防署の先端屈折はしご車（35m）を更新し、25m屈折はしご車を配備する。
- 7月 消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
南支署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 10月 東支署の水槽車（10t）を更新する。
- 令和 8年 2月 消防署の指揮車を更新する。
- 3月 小牧市婦人消防クラブ連絡協議会が解散する。

令和 7 年度の主な行事

令和 7 年

- 4 月 6 日 小牧市消防団訓練会（小牧中学校）
- 2 0 日 消防観閲式（小牧中学校）
- 5 月 1 0 日 小牧市婦人消防クラブ連絡協議会総会（市役所）
- 1 7 日 小牧市水防訓練（北里小学校）
- 2 2 日 小牧市防火協会定期総会（創立 6 0 周年記念）（小牧勤労センター）
- 2 3 日 小牧市危険物安全協会定期総会（小牧勤労センター）
- 6 月 8 日 危険物安全週間（8 日～1 4 日）
- 7 月 2 2 日 愛知県消防操法大会出場団激励会（小牧中学校）
- 2 4 日 消防救助技術東海地区指導会（三重県消防学校）
- 8 月 9 日 第 7 0 回愛知県消防操法大会（豊田市）
- 3 0 日 全国消防救助技術大会（兵庫県）
- 9 月 7 日 救急医療週間（7 日～1 3 日）
- 1 0 月 1 9 日 小牧市総合防災訓練（小牧西中学校 外）
- 2 3 日 愛知県名古屋飛行場消火救難総合訓練（県営名古屋飛行場）
- 1 1 月 7 日 市役所消防訓練（市役所）
- 8 日 小牧市婦人消防クラブ・小牧市少年消防クラブ防火広報（ラピオ）
- 9 日 消防団幹部行政視察（広島県）（9 日～1 0 日）
- 9 日 秋季火災予防運動（9 日～1 5 日）
- 1 2 日 林野火災対応訓練（野口ふれあいの森）（1 2 日～1 3 日）
- 1 5 日 緊急消防援助隊中部ブロック訓練（岐阜県）（1 5 日～1 6 日）
- 1 5 日 いきいきこまき 2 0 2 5 消防フェア（小牧市市民会館）（1 5 日～1 6 日）
- 1 2 月 1 日 小牧市消防団年末特別警戒出発式（小牧市市民会館）
- 7 日 消防署・団合同訓練（消防本部）
- 2 3 日 特別点検

29日 小牧市消防団年末夜警（29日～30日）

令和8年

1月10日 消防出初式（小牧市市民会館）

2月 2日 名古屋市消防航空隊との連携訓練（野口ふれあいの森）

19日 小牧市婦人消防クラブ連絡協議会研修会（岐阜県）

28日 小牧市婦人消防クラブ・小牧市少年消防クラブ防火広報（ピアーレ）

3月 1日 春季火災予防運動（1日～7日）